2024 年度業務実績報告書

提出日 2025年 1月 16日

- 1. 職名・氏名 准教授・中井美和
- 2. 学位 博士(経済学)、専門分野 環境経済学、授与機関 神戸大学、授与年 2015年
- 3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習

- ①担当科目名(単位数) 主たる配当年次等
 - (1) 環境経済学(2単位)3、4回生
 - (2) 応用経済学(2単位)3、4回生
 - (3) 演習 I (4 単位) 3 回生
 - (4) 演習 II (4 単位) 4 回生
 - (5) 外書講読(2単位)2回生
- ②内容・ねらい
- (1) 環境問題を経済学の視点から理解し、環境問題解決のために講じられている経済学的アプローチを理解すること。
- (2) 応用経済学とは、労働、環境、金融、教育など様々な分野における問題の解決を目指し、 経済理論を社会課題に実践的に応用する学問である。講義前半では実証論文を読むため に必要な知識である、統計学と計量経済学の復習を行い、講義後半では、環境問題、労 働問題、教育問題の解決に資する政策・施策への事前評価または事後評価としての実証 研究を紹介する。
- (3) および(4) 卒業論文執筆に向け、研究力の基礎を身につけること。
- (5) 英語で文章を読むことに慣れること。環境問題に関心を持つこと。
- ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
- (1)最新の環境問題を反映した講義内容・資料の作成に務めた。また、第一回目の講義でアンケート調査を実施し、学生の関心のある環境問題を把握することで、できる限り学生が学びたい内容を講義に取り入れるよう心がけた。また、講義中に全員参加型のクイズを出題したり、随時質問を受け付けることで、なるべく学生とのインタラクションを取る工夫をした。
- (2) 卒業研究の架け橋となるように、調査の設計方法や論文の書き方を講義内容に取り入れた。また、最新の実証研究の論文を読み、練習問題を解く機会を複数設け、回帰分析の結果の読み方、解釈の方法についても解説を行うことで、実証研究に親しみを持てるように工夫した。
- (3)、(4)池田町のご協力のもと、視察を行い、地方自治体の環境政策・施策のあり方や課題について議論する機会をいただいた。
- (5)輪読に加え、関心のある環境問題について英語でプレゼンテーションをする課題を設定した。発表準備として、講義中にインターネットや図書館で調べ物をしたり、World Café のインストラクター(英語のネイティブスピーカー)を訪ねて発表資料の英語チェックを受ける機会を設けた。当日は World Café の一角をお借りしてプレゼンテーションを実施した。プレゼンテーションそのものに不慣れな学生も多かったため、資料の作成方法や発表方法に問題のある学生もいたが、3回生以降のゼミ活動の橋渡しになったのではないかと考える。

(2)その他の教育活動

なし

4. 研究業績

(1)研究業績の公表

① 著書

【0本】

②学術論文(査読あり)

- 1. Mitsunami, K., <u>Nakai, M.</u>, 2024. Are sustainable firms more innovative? The case of China. *Japan & The World Economy* 69, 101238. https://doi.org/10.1016/j.japwor.2024.101238
- *2. <u>Nakai, M.</u>, V. Lossel., V., Wetzel, H., 2024. Preferences for dynamic electricity tariffs: A comparison of households in Germany and Japan. *Ecological Economics*, 108239.

https://doi.org/10.1016/j.ecolecon.2024.108239

【2本】

③ その他論文

- 1. Hassett, K., Mebiame, R. M., Mortha, A., <u>Nakai, M.</u>, Ahlbord, H., Michael, K., Ozdemir, U., Tikoudis, I., Lamhauge, N., Osunmuyiwa, O., Arimura, T., and Johnstone, N., 2024. Household energy choices: New empirical evidence and policy implications for sustainable behaviour, *OECD Environment Working Papers*, No. 247, OECD Publishing, Paris, https://doi.org/10.1787/534a14fe-en.
- 2. Nakai, M., Yajima, N., Ravago, M. Cooling the Tropics Sustainably: Evidence from a Choice Experiment on Energy Efficient Air Conditioners in the Philippines. Revision Requested from *Energy Economics*.

【2本】

④学会発表等

*Miwa Nakai. Sustainable investment among retail investors in Japan. 環境経済・政策学会 2024 年大会. 2024 年 9 月開催.

【1件】

⑤その他の公表実績

2020年に設立した「北陸環境経済学ワークショップ」を開催し、自身も研究発表を行なった。発表の詳細は以下の通り。

中井美和. Individual Sustainable Investing in Japan: Status quo, Barriers, and Solutions. 第4回北陸環境経済学ワークショップ. 2024 年 11 月 29 日, 福井県立大学にて開催.

【1件】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

【学外】

- 中井美和(研究代表者).日本学術振興会 科学研究費 基盤研究(C).フィールド実験を 用いたサステナブル投資普及要因の解明:日本とフィリピンの事例.(1年目)
- 中井美和(共同研究者). 日本学術振興会 科学研究費 基盤研究 C. U 理論に基づいた自律性支援型 ESD 授業における動機づけ評価指標の実証的研究(代表:金沢大学 河内幾帆). (5年目)
- 中井美和(共同研究者).日本学術振興会 科学研究費 基盤研究 C. U 中国企業の研究開発の成果に関する実証的研究:地方政府の産業政策と ESG 経営の視点(代表:帝京大学三並康平).(2年目)

【学内】

中井美和(研究代表者). 福井県立大学 競争的課題研究推進支援. フィリピンにクリーンな公共交通を:電気ジプニーの社会受容性に関する実証研究. (単年)

(3)特許等取得

なし

(4)学会活動等

- 環境経済・政策学会 常務理事
- 環境経済・政策学会 2024 年大会 座長(1 セッション)

5. 地域·社会貢献活動

委員就任(国)

北陸農政局農村計画課関係補助金等交付先選定審査委員会 委員(期間:令和5年3月14 日~現在に至る)

委員就任(県)

- 福井県環境審議会 委員(期間:令和4年2月1日~現在に至る)
- 福井県環境審議会 カーボンニュートラル評価委員会 委員長(期間:令和6年2月~現在 に至る)
- 福井県公共事業等評価委員会 委員 (期間:令和6年7月26日~現在に至る)

委員就任(市町村)

福井市長政治倫理審査会委員(期間:令和5年8月1日~現在に至る)

講演会 講師

- 福井県立若狭高等学校 2年国際探究科 講演会および教員研修会
- タイトル:フィリピン研修に向けて:事例研究の紹介と研究報告・交流へのアドバイス 開催日: 2024年10月25日

6. 大学運営への参画
(1)補職
なし
(2)委員会・チーム活動
国際センター(仮)準備委員会
(3)学内行事への参加
なし
(4)その他、自発的活動など